

# TUD飲んだくれ皆既日食観測隊報告

山田 真裕(1993惑星)

## 【参加者】

原和巳(1985 天写)  
友部巖太(1991 変光)  
蜂須賀和也(1991 構造)  
南健一郎(1991 新天)  
和田靖則(1991 天写)  
山田真裕(1993 惑星)

## 【観測場所】

月湖彫塑公園  
北緯 31° 6' 18.52"  
東経121° 11' 57.74"

## 【器材(山田)】

CanonEOSKissX2  
BORG45EDII  
BORG1.4倍テレコンバータ  
VixenGP2赤道儀  
アストロソーラーフィルター

4月のある日。  
とある飲み会の席で、皆既日食の話になった。  
呑み仲間の蜂須賀さんが上海に在住しているという事もあり、蜂須賀邸訪問も兼ねて皆既日食見物に行こう、という話になり次々とメンバーが集結。  
観測場所、移動手段は蜂須賀さんが行きつけにしている上海の焼酎バー「地蔵」の店員の方や常連の方々と協力して手配していただいた。

7月22日。  
天気は曇り。太陽も見えない。絶望感に浸りながらチャーターしたバスに乗り、郊外の「月湖彫塑公園」へ。



約20m四方の広いエリアが観測場所として用意されていて、周囲の環境は最高。天候も少し好転し、欠けた太陽が雲間から見え始める。天候回復へ淡い期待を抱きながら、器材を用意しはじめる。



↑：私の器材



↑：南さん撮影の部分日食

ところが。  
第2接触40分前、という頃になってから天候が急変。土砂降りとなった。



既に器材を全て組み立ててしまっていたので、雨宿りに逃げる事もできず、器材を傘で守りながら第2接触を待った。土砂降りのまま第2接触の時間になると、急速に周囲が暗くなっていくのがハッキリとわかる。



↑：友部さん撮影の連続風景写真  
左上(9:34)、右上(9:35)、左下(9:36)、右下(9:37)

暗くなるのと同時に、雨もピークに。雷雨の中での皆既帯突入となった。  
「すげー！」  
「ちくしょー！」  
同時に出てきたこの言葉。最大限の感動と最大限の悔しさ。今までの人生でこの様な体験をした事がなかった。

やがて第3接触を迎え、急に周囲が明るくなり、虚脱感に覆われた。その後、天候回復が見込めなかったため、第4接触を待たずに撤収決定。

その後、上海市内の蜂須賀邸を拠点に、観光や料理を思う存分堪能。  
すっかりグルメツアーに衣替し、単なる「上海飲んだくれ隊」となった我々は、皆既日食を見られなかった鬱憤を十二分に発散し、帰国した。



飲んだくれ隊メンバー&「地蔵」メンバー



グルメツアーで堪能した料理の数々



別の日食ツアーで上海に滞在していた露木さん(1988新天)との夕食



蜂須賀さん行きつけの焼酎バー「地蔵」：→